



公共の担い手 パソコンブックス解消大作戦と地域での世代間交流のきっかけづくり

特定非営利活動法人TRYWARP 代表理事 虎岩雅明

コミュニケーションツールとしてのパソコン

国内では2000年に提唱された「e-Japan構想」以来、情報技術のことをITという言葉で頻繁に使われるようになった。2006年になると「u-Japan構想」が提唱され、ITという言葉に代わり、情報通信技術を意味するICTという言葉が一般的に使われるようになった。ITとはInformation Technology、ICTとはInformatiton and Communication Technologyを意味する。

これまで、ドキュメント作成などの様な、所謂ものづくりのためにパソコンが使われることがほとんどであったが、時代が進み、ものづくりだけでなく、コミュニケーションのツールとして使われる機会が急速に増えてきた。作業を代替する便利なツールから、人間同士の交流にパソコンが使われるようになったのである。これにより、パソコンは使わな



いと決め込んでいた人たちが、ICT機器を使わざるを得なくなってきた。こういった「使わざるを得ない」人々が急速に増える中で、ICT機器に苦手意識を持つ人はますます増大している。

地域の問題として地域で解決

パソコンに苦手意識を持つ人々は、パソコンを使って何かをやりたいという明確な目的があるというよりは、使わないといけないという切迫感からパソコンを使い始める場合が多い。一方でプロのインストラクターは、自分の高いスキルを活かして仕事をすることで生きがいを感じている場合が多い。しかし、これから爆発的に増えていくであろうパソコンに苦手意識を持つ人々は、スイッチの入れ方、クリックの練習といった基本的なところを親身丁寧に何度も繰り返し教えてもら



うことを望む。パソコンを利用しての就業を考えている場合であれば、プロのインストラクターに高額なレッスン料を支払うのはひとつの投資と考えることもできるが、家庭の中でパソコンを使うことで生活をより豊かにするために習い始めた人々にとって、プロのインストラクターに支払う高額なレッスン料を支払う動機はつくりづらい。また、プロのインストラクターにとって、パソコンの初歩の操作を親切丁寧に繰り返し教えることは、自分の高いスキルを十分に活かすことができず、その仕事になかなか生きがいを感じることができない場合が多い。自分の高いスキルを活かしてこそ、その仕事に生きがいを感じる場合が多いからである。最も良い解決策は、家族の中である程度使いこなしている人が親子で教えあう事であるが、忙しい中で親子げんかの火種になる可能性が非常に高い。そこで、我々は、地域の問題として地域の若者が解決できる全国的な仕組みづくりを目標とした活動を行っている。

スキルアップではなく 苦手意識の解消

私たちの活動は、個々のスキルのレベルアップよりも、いつでも困ったときに助けてくれる状態をつくっていくことを第一の目標にしている。いつでも頼りになる存在になることである。スキルアップへの取り組みは、民間のパソコン教室や自治体のIT講習でこれまで数多くなされてきた。これによってスキルアップした人々が増えたおかげで、今のICT社会が前進し続けているのも間違いのない。

しかし、これらの取り組みだけでは、パソコンを生活の中に取り入れることにまだまだ不安を持っている人たち全員をフォローしきれていない。そこで、我々は、講習会だけでなく、講習会以外でもいつでも困ったときに相談できる「パソコン相談コーナー」や「個別レッスン」、家電量販店と一緒に買い物に行く「パソコン購入ツアー」、ご自宅まで直接伺う「出張サポート」など、トータルでパソコンに関するケアを行なっている。定期的に機関誌を発行することにより、パソコン生活をより豊かにする情報提供などにも取り組んでいる。ちなみに一番人気のパソコン講習は、半年間20回の参加で、全くパソコンに触ったことがなかった人が、友達にパソコンを使い始めたと自慢できる様になる「超入門コース」である。

世代間交流がもたらす 地域への愛着

私たちのパソコン教室の講師陣は千葉大の卒業生や現役の大学生が担当している。パソコン教室で、知り合ったこの関係は、まちを歩いていて「こんにちは」という挨拶を新た





に生むきっかけとなる。大学に入学して、一人暮らしをしながら大学に通う大学生にとって、地域で挨拶が交わされるのは、初めての体験でとても温かいものである。東京の企業に就職する学生が多い中で、卒業後もう一度このまちに帰ってみたいという気持ちは、世代間の関係が地域で築けたからこそ生まれた愛着によるものである。

一度会った関係を繋ぎ続けるために、地域SNS「あみっぴい」の運営も2006年に開始した。パソコン教室で知り合った生徒さん同士、生徒さんと先生とのつながりは、教室を卒業してしまうとなかなか育むことが難しい。しかし、受講中に登録した「あみっぴい」を卒業後に覗いても同窓生や講師だった大学生の先生の顔ぶれを見つけることができる。書かれた日記などを見ると、今何をしているのかも垣間見ることができると、いつ西千葉に顔を出してくれるのかもわかったりする。「あみっぴい」のシステムは現在約4,000人の方が会員登録して西千葉ライフを楽しんでいる。地域でパソコンの初心者に応援する仕組みもこのサイト内にある。いま、全国から同じ仕組みを取り入れたいと期待され、多くの地域に導入する方法を模索している。

活動開始から各種受賞

2004年に設立して以来、7年の月日が経過した。インターネットが普及すると、マスメディアのような遠くの情報だけでなく、より身近な人々の情報をパソコンを使って収集するようになると思ったのが創業の経緯である。身近な人々の情報を入手するのにパソコンが必要になると、より多くの人を使うようになり、パソコンが苦手なことが生活の豊かさを欠く心配もある。そこで、苦手意識の解消の取り組みを目標とした活動として始めたのである。「あみっぴい」の運営を含めたこの活動は、日経地域情報化大賞や経済産業省のソーシャルビジネス55選にも選ばれた。デジタル化が急速に普及する中で、ICTを用いて人と人とのつながりを含めたあらゆるアナログ的な要素を引き立たせることが可能になってきた。苦手意識をケアすることで、デジタル化の弊害となる人々をできるだけ減らしていく一方で、まちへの愛着、ひとへの愛着づくりの一役を担いたい。

受講生のべ	22,006名
西千葉以外受講生のべ	783名
講習会開催	2,377回
西千葉以外講習会開催	60回
サポート出動	2,658回
相談会利用者	2,054名
購入ツアー開催	233名
登録スタッフ	120名